

令和4年度 さくらんぼ環境 | SOの取り組み

東根市立大富中学校

1 はじめに

今年度、生徒会のスローガン「紡ぐ」～伝統の意図を、そして未来へ～とし、これまでの伝統を糸に例え、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった大富中学校の伝統を、次の世代へ紡いでいこうとしています。そして、その中核に東根市立大富中学校環境方針を掲げ、私たちを育む地域の豊かな自然を守り、持続可能な環境保全・環境美化のために、継続さらに進化を求め、生徒会活動を中心に身近なところから実践できる活動に取り組んでいます。

また、大富中学校は、建築してから38周年を迎えました。そこで、先輩方から引き継いだ本校舎を大切にに使わせていただくことも、環境を守っていく上で大切なことと考え、校舎の美化、修繕、清掃も活動として実践しています。



2 生徒会（特色メニュー）

(1) アルミ缶回収（全校生）

5月18日、6月15日、7月20日、9月14日、10月12日の朝7:30～8:00まで、生徒会執行部が昇降口前に立ち回収作業を行いました。あと11月にもう一回計画しています。以前は、地域の方に回収の呼びかけをしていましたが、コロナ禍のため生徒のみとしています。地域の方からは、回収の問い合わせがあったり、不意に持ってきていただいたり、学校での取り組みに協力的です。来年度には、以前の形に戻し環境を通じて地域とのつながりを広げていけるといいです。昨年度は収益金で、「特別養護老人ホームおとおみ」にアルコール消毒液とデジタル血圧計を贈りました。今年も、地域の施設で必要なものを贈りたいと考えています。



(2) 100花壇（全校生）

5月16日に全校生がクラスごとにベコニアの苗を植えました。水をかけたり草をとったりすることの世話をする姿やきれいに咲く花の様子は、見る人の目を楽しませるとともに、学校の様子を伝えるよい機会になっています。10月6日には整美委員会で、花壇の片付けをしました。



(3) クリーン作戦（全校生）

6月6日と10月3日に大富地区内を7つのグループに分けて、校外活動委員会が中心となって、自分たちの住む大富地区をきれいなまちにするために行っています。特に空港と高速道路の降り口や近々2車線になる学校前の通り車の動きが激しく、多くの方が本校を目にします。交通安全に気を付けながら、私たち大富中生の姿から東根市の良さを伝えることができるよう取り組んでいます。



(4) 玄関花壇の整備（整美委員会）

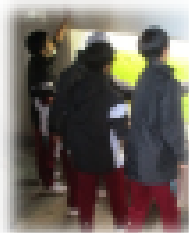
100m花壇と同時期にベゴニアを植え、登校する生徒の気持ちを明るくすると共に、お客様を花で迎えるために、毎年植えています。整美委員会の活動として世話をしつつ、技能士さんが常に手入れをしてくださるので、玄関だけでなく大富中の環境は、いつも整っています。10月6日には第2段として、チューリップの球根を植えました。来年の春には、赤や黄色の花が、みんなを楽しませてくれることを期待しています。



(5) 大富会地域ボランティア活動（希望者）

10月22日に小見川淡水魚観察棟の清掃作業を計画していただいている大富会の活動に、希望者18名が参加して、観察棟のガラスや床拭き、周辺の草取り、ゴミ拾いを行いました。新種として発見されたカクレトミヨを地域の方と守っていく活動を引き継いでいきます。

※大富会：大富地区出身の東根市役所職員で構成された活動団体



(6) 床磨き：廊下真っ白作戦（全校生）

10月17日に、生徒会整美委員会からの提案で、メラミンスポンジを用いて廊下の床の汚れを磨いておとしました。一人タイル4マス以上を目標に、床を真っ白にしました。全てを磨くことはできなかったため磨いたところと、磨けなかったところがまるでオセロのようになり、早くも次回の計画の必要性を感じました。

3 学校全体（共通メニュー）

省エネルギー、省資源対策は、私たちの毎日の生活で当たり前のこととして、実践に心がけています。「リサイクルボックスの活用」、「節水のための水道の蛇口締め」、「節電のための空き教室の消灯、トイレのふたを締める」ことを、継続して行っています。



4 色とりどりの花々

(A) グラウンドを囲む桜の木は、私たちをいつも見守ってくれます。毎年、花見の時間をつくり、団子を食べる生徒の様子は、笑顔一杯で心の安らぎになっています。地域の保育園児や住民の方からも花見をさせてほしいと連絡を頂く大富中のシンボルです。

(B) 100m花壇の脇を彩る芝桜は、生徒が植えた花とともに大富中を華やかにしてくれます。

(C) 今年もビオトープは、ピンクの花を咲かせ、生徒の心を和ませてくれます。



(A)

(B)

(C)

5 成果 (○) と課題 (△)

○令和4年度になり、コロナ禍でできなかった活動が、ほぼ年間を通してできるようになり、大富中の先輩が築いてきた伝統を、自分たちが引き継いだという実感がわいてきました。

△今あるものを、大切に、できるだけ長く保っていくことが私たちの役割と考えます。大富中が、地域を活性化していく中心の一つであるという自覚を持ち、卒業してからも母校を大事にしていきたいです。

そして、次の代に紡いでいきたいです。